

君なんかもうみたくない

karinomaki

先生

先生は、私の中の悪魔を嫌い、私を心から思ってくれている・・・と私は思いたい。

先日、私に移るモーツァルトを、一人の、顔の醜い女性（患者）が、「きもい。」と言った。そして、それ以来、すれ違う度に、私に聞こえるように、「きっしょ、きっしょ」と言う。

「あんたの方がきもい。」の一言を、私は飲み込んだ。その子は醜くゆがんだ顔をしていたから。

たとえ、顔が美しくなくても、心が美しい人は、醜くはない。しかし、その子は、心の醜さが顔に表れていた。下品な声で笑い、デイケア（病院の、心の治療の場）スタッフに取り入る・・・、私はその子が嫌いだった。

次に「きもい」と言われたら何か言い返そうと思っていたら、先生の夢にうなされ、目が覚めた私はわんわん泣いた。

先生 2

先生の、以前の診察で、私は言われた。「君はもうぼくの手には負えない。他の先生に代わってくれ。」

私は泣かなかった。私には、もう泣く理由がなかった。一生そばにいてくれるもっと大事な人を見つけていたから。

私は笑って過ごし、でも一人の時間になると、痛みで押しつぶされそうになり、「先生がそんな無責任な方ならば、それで結構です。」という書き置きを外来の事務の人に渡してもらった。

先生へ

先生、先生はどうして私を泣かすのですか？ どうして突き放すのです？

その意味を教えてくれたのは、今そばにいてくれる人だった。

「先生は君を治したいだけなんだよ。先生だから。」

私は夢から覚め、その人に抱きついて泣いた。

許してほしい。結婚している先生を想うのが耐えられなくて、私は癒してくれる人を選んで幸せになった。それでも、・・・ああ、それでも、私は先生を心から愛している。

なぜなら、私はもう、顔のゆがんだ女の子にもう言い返さないことに決めた。

先生は、私が強いとわかっているから、「がまんしろよ、」と心を鬼にしてたたきのめす。しかし、あの、顔のゆがんだ女の子が先生の患者なら、先生は我慢して優しく接するだろう。彼女が弱いことを知っているから。

先生、だから・・・そんな先生だから愛しているのです。

永遠に愛し、そして、時に憎むのでしょうか。でも、愛はそうやって深まっていくのでしょうか。